

# 人権だより

第 16 号

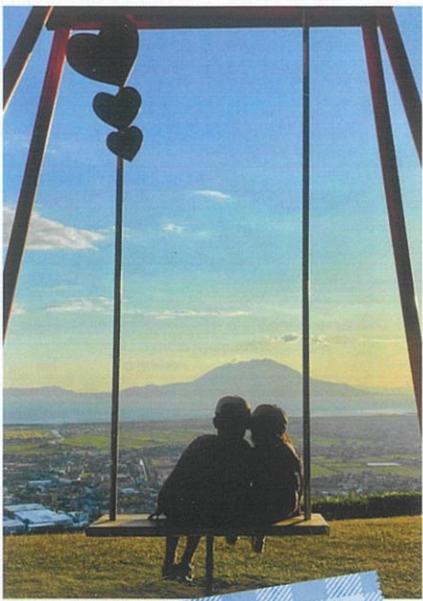
令和 8 年 3 月 発行  
五個荘地区人権の  
まちづくり協議会



パパ!気持ちいい?

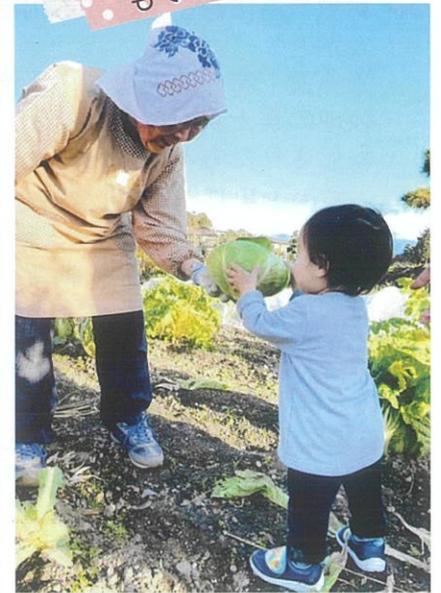


おおきなキャベツ  
もてるかなあ?



夕映えのスイング

## あつたが 写真展



いっしょに、ね。



雀三兄弟

3人だんご



# 戦後80年が伝える人権メッセージ

五個荘地区人権のまちづくり協議会会長 河村 栄一

10月29日、東近江市人権のまちづくり協議会から市内愛東地区にある平和祈念館での研修会に参加しました。

## ◆平和祈念館について

第二次世界大戦(1939~45)による犠牲者は、世界全体で軍人・民間人が約5400万人でした。日本では軍人(戦闘員)・軍属(戦闘には参加せず、軍の運営や支援の業務を行う人)が約230万人、民間人が約80万人、合わせて310万人が犠牲になりました。(厚労省の統計)

滋賀県は平成5年度から戦争の資料や体験談の収集を行い、その資料は約5万点、戦争体験や当時の様々な出来事について語っていただいた方は2千人以上にのぼりました。これらのかげがえのない貴重な資料を展示、公開されているのが旧愛東町役場庁舎を活用した滋賀県平和祈念館です。今から14年前の平成24年3月に開館しました。

## ◆展示や映像をみて

現代は親子世帯が多く、3世代や4世代といった同居世帯は少なくなりました。祖父母世代から戦時中のお話を聞いた方もだんだんと少なくなっているのではないのでしょうか。

展示や映像の内容の一部を紹介しますと…

- ・徴兵(身体)検査で合格すると、役場職員が兵役に就く召集令状(赤紙)を配達。
- ・お国の為に命をささげる出征はめでたい事であると集落を挙げて、駅などでの見送り
- ・爆弾投下時の防空壕での恐怖
- ・戦地の兵士からの家族を思う手紙
- ・戦死された方々の知らせを家族に配達する役場職員 などなど。

一家の大黒柱が戦争に行き、家業や家計を女性や子どもが支えなければならないという大変な生活環境でした。「人権」が尊重されなかった時代の様々な資料が展示されています。

戦争体験を語り継ぎ、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、平和を願う心を育むため、資料展示や体験談を通して、戦争体験者の思いや願いが感じられたらと思います。ぜひ訪れてほしいと願います。



平和祈念館



研修の様子

## ◆最大の人権侵害は命が奪われること

日本では戦後80年が過ぎ、民主化のもと、人権と自由を手にすることができました。戦争で荒廃した町や人々が犠牲になる悲惨さを知るとともに、戦争のむなしさからの再スタートにより、日本を立て直した先人の努力の上に、今を生きる人々の生活基盤が成り立っているというお蔭を感じることが出来ます。

しかし、世界各地では今なお紛争や戦争が続いています。争いによって得られるものは何もありません。戦争に負けた国は悲しみを心に刻み、勝った国は水に流すでしょう。日本の戦後80年も通過点に過ぎず、100年、200年と悲しみを心の片隅に持ち続けることでしょう。多くの国で争いがやみません。この気持ちに気づいてほしいものです。



## 表紙のことは

第18回あったか写真展を世界人権デーに合わせて令和7年11月22日(土)~12月10日(木)まで五個荘コミュニティセンターで開催しました。

表紙に、中川清志さん(左上)、佐生輝美さん(右上)、西村正義さん(右中)、田井中泰さん(左下)、塚本純香さん(下中)、橋本真由子さん(右下)の作品を掲載しました。

ご応募いただきました皆様、ありがとうございました。



## 令和7年度役員

会長	河村栄一
副会長	大橋保治 (啓発部長)
〃	溝江 透 (研修部長)
〃	市田 衛 (広報部長)
会計	奥野常德
監事	元嶋 豊
〃	辻 良子
事務局長	細居悦子

各町推進員・推進委員の皆様、1年間ありがとうございました。

12月5日 第2回  
人権を考える研修会

## 『戦後80年に想う』

田中 慶希さん



今年度の人権を考える研修会は、元五個荘中学校校長で現在五個荘中学校学校運営協議会委員の田中慶希さんをお迎えして、12月5日に五個荘コミセン大ホールにて開催しました。

田中さんからは、ご家族の体験や滋賀県平和祈念館の資料を交えながら、戦時の様子を紹介していただきました。令和5年に五個荘竜田町の地面から見つかった戦闘機のエンジンのこと、五個荘に集団学童疎開をされた人や空襲の話もあり、戦時が身近にあると感じました。

ただ、80年という長い時間が経ち、記憶が薄れていることもたくさんあります。若い人の中には、東近江に飛行場があったことを知らない人もいます。

戦時体験者の動画に「はじめは（戦争が）遠いところのことだと思っていた」と語る場面がありました。戦争はゆるやかに近づいてくるという話もありました。

「戦争は最大の人権侵害」とよく言われます。戦時のことを学ぶ機会も大切です。そして、「戦争の記憶が遠ざかるとき、戦争がまた私たちに近づく」（石垣りんさん）という言葉の意味を身近な人と考え合う時間をつくることも大切ではないでしょうか。（研修部長 溝江 透）



6月24日  
二者懇談会



6月27日、五個荘コミュニティセンターにて五個荘地区町別懇談会打合せ会が行われました。この会は各自治会の町推進員さんと市職員の行政推進員とが懇談会の日程と懇談会の形式や内容を詰めるものです。

コロナ禍以降、徐々に元の状態に戻り、全自治会の取り組みをいただけるようになってきました。打合せ会の最後は町推進員と行政推進員とが協議した内容を計画書に落とし込む作業です。各自治会とも熱心に取り組んでいただきましてありがとうございました。（会長 河村 栄一）





# 令和7年度人権のまちづくり町別懇談会



今年度の町別懇談会は、全27自治会で開催され、うち3自治会の報告をします。

## 身近な人権問題 ～人権は小さな気づきから～

新堂町人権のまちづくり推進員  
河村 早苗

10月18日、人権啓発DVD「人権は小さな気づきから」を視聴しました。人権には、いじめ(LINE等SNSを含む)、子ども、女性、高齢者、外国人、障害者、病気の人の人権、そして虐待や風評被害の問題など数多くの種類があります。人権は心が発する問題であり、時には命に係わる大きな問題となり一人一人が人権に対する意識を少しずつもつことで、救える命もあります。

※以下はある参加者のお話です。

「差別」の反対語は「平等」と思われますが、「平等する」という言葉はありません。「平等にする」はありますが、組織的に取り組まなければなりません。では反対語は「認めあう」「尊敬する」ではないでしょうか。

他の言葉に言い換えると「見下げる」と「見上げる」の関係になるのでは。同じ人間として上から目線で見るとはならず、自分にはないその人の魅力を見出し、見上げることにより、自分の心の奥に潜む差別心に気づき、差別をなくす第一歩になるのではないのでしょうか。

いい研修となりました。

## 家庭からふりかえる人権

石川町人権のまちづくり推進員  
上鶴達也 上鶴眞智子

11月8日、参加者12名で町別懇談会を開きました。テーマは「家庭からふりかえる人権」、DVDを観た後意見交換を行いました。高齢の方が多い町ということもあり、認知症や介護のお話を中心にしました。認知症の方には、その人のペースに合わせた声をかけることが安心につながるとの意見があり、地域での温かな声かけの大切さを感じ

ました。

また、介護を経験したご家族からは、実際の苦労や気持ちが率直に語られ、「支える側」の大変さにもあらためて気づかされました。

今回の懇談会では、支える人も支えられる人も、どちらも大切にできる社会について考えるきっかけとなりました。



## 高齢社会における人権 「認知症」について学ぶ

五位田町人権のまちづくり推進員  
古井裕彦 川嶋義明 玉置聡之

12月7日、五位田町公会堂において、令和7年度「人権研修」を開催しました。五位田町では毎年人権週間の時期に、人権に関する理解を深める研修会を開催しています。今年は高齢化が進む中、「認知症」に関する知識を学ぶためDVDを視聴し、認知症についての正しい理解と、認知症の方への

接し方の基本について学びました。

参加者からは、「認知症の方への接し方の基本を理解することができた」、「実際に学んだ方法を行動に移すのは難しい」などの感想がありました。

今後ますます高齢化が進む中、このような研修を継続することにより、五位田町が高齢者に優しい町となることを願っています。



# ぬくもりメッセージ 2025

## ポスター

東近江市内の小・中学生、一般から応募のあったメッセージ502、標語6,731、ポスター986作品のうち五個荘地区から優秀賞に選ばれた作品を紹介します。(敬称略)



「みんなの個性が輝ける」

いのうえ みのり

井上 実莉 五個荘中学校2年

## メッセージ



「自分らしく」

やまだ りおん  
山田 莉音

五個荘小学校6年

す。私は、よく人と比べるくせがありま  
「あの子は、明るくて友達がたくさ  
のいるのに比べて私は……。とか「あ  
の子は、頭がいいのには……。など  
他人を上げて、自分の下に下げる考えを  
しないで、自分よりすぐれている  
人を見ますが、自分よりすぐれている  
し、他人を上げる、自分よりすぐれている  
は、他人を上げる、自分よりすぐれている  
よ、他人を上げる、自分よりすぐれている  
も、他人を上げる、自分よりすぐれている  
なり、他人を上げる、自分よりすぐれている  
考、他人を上げる、自分よりすぐれている  
い、他人を上げる、自分よりすぐれている  
で、他人を上げる、自分よりすぐれている



「豊かな個性」

いりえ くら

入江 来楽 五個荘中学校2年



「勇気と笑顔」

かわかみ ちえ

川上 千枝 五個荘中学校2年

## 標語



「やらないで いのちにかかわる せんそうは」

つじ りんたろう  
辻 倫大朗

五個荘小学校2年



「やめようよ『どうせだれかが』その考え」

うしじま ゆうき  
牛島 悠希

五個荘中学校3年

## 五個荘地区 人権擁護委員活動



# 人権擁護委員って何してるの？

人権擁護委員は全国の市町村に配置され、地域で人権相談を受けたり、人権の大切さを広める啓発活動を行ったりしている民間のボランティア団体です。

具体的には市役所や法務局で人権相談を受け付けたり、小学校や幼稚園を中心に人権教室を実施して、子どもたちに人権の大切さをわかりやすく伝える活動をしています。また「SOSミニレター」を学校に配布し、子どもたちの悩みを受け付け手紙で答えています。五個荘では、中央公園やスーパーマーケットの店頭で啓発活動を行うこともあります。

人権擁護委員は「誰もが安心して暮らせる社会を目指す」そのお手伝いとして地域で地道な活動を続けています。  
(研修部 藤野 富佐子)



## 1月31日 福祉・人権のつどい

# 『つながる笑顔 ～誰かに少しでも優しい世界に～』

小原 日出美さん



講師の小原日出美さんは介護福祉士、介護支援専門員（ケアマネジャー）、相談支援専門員のご経験から、介護の現場が楽しくなるような活動、そして様々なだれかの一步を応援する活動を実施されています。具体的には、中野ヴィレッジハウスにあるカフェ、「CAFÉ HAPPY TO DAY」では参加者同士とつながりをもちつつ、ゆっくり過ごせる地域の居場所としての機能づくりを実施。また、介護が楽しく学べるカードゲーム「CLUE CARD」、不登校を理解するためのカードゲーム「CLUE CARD sweet」の普及、ファシリテーターの養成などです。

日本では少子高齢化が進展、多様な家庭があり、周囲の方が気づきにくい発達障害、精神障害、難病、不登校、そして外国籍の方、性的マイノリティ等で生きづらさを抱える方もいらっしゃいます。

小原さんはどんな人も自分を大切にできて、自分や他者を理解する幸福な社会を目指して活動されています。幸福とはウェルビーイング（精神的、身体的、社会的に健康）な状態。地域社会では、白黒をはっきりさせるのではなく、いい塩梅に、自分を大切に、相手も大切に、お互いを尊重すること。そのような人権尊重のまちづくりが大切と小原さんはおっしゃいます。

私たちは何か問題が起こるとその原因を追究しがちですが、相手がどうしたいのか、何を求めているのか、まずは共感して受け止めることの大切さをこの講演で学びました。  
(広報部 川島 美子)



## 編集後記

戦後80年の節目の年に平和ということを考えさせる事件が相次いでいます。ウクライナへのロシアの侵攻が3年にも及び、パレスチナ問題や、中国の周辺各国への主権侵害行為など国内の平和感覚と違ったことがニュースとなっています。

命の大切さや人権問題がニュースとなってはいるものの、その場限りで軽く扱われているのではないかと、危惧しているのは私ばかりではないと思いますが、人の心の中までは誰もが入り込めません。時には重く、又あるときには軽く、他人事のように揺れ動く私たちの心は計り知れないものがあります。

人間の心の中が複雑かつ絶えず揺れ動き続けるものであっても、代えがたいたった一つの命であることを一人ひとりに伝えていきたいと思います。  
(広報部 西 義一)